

<実践報告>

学生主体の地域貢献活動「信大 YOU 遊未来」による学生の成長

服部直幸 須坂市立森上小学校
土井 進 信州大学教育学部教育科学講座

“Shindai YOU Yu Mirai.” Empowering Human Spirit
through Student-Led, Community-Based Activities

HATTORI Naoyuki: Moriue Elementary School, Suzaka City

DOI Susumu: Educational Science, Faculty of Education,
Shinshu University

研究の目的	信州大学教育学部において20年間継続されている「信大 YOU 遊未来」という地域貢献活動による学生の成長は、「人間力」の根幹である「友情」(Friendship)と「感謝」(Gratitude)に表れていることを究明する。
キーワード	信大 YOU 遊未来 (CHANCE) 実践的指導力 人間力 友情 感謝
実践の目的	学生が大学キャンパスを離れて地域社会と協働して青少年育成活動に献身することによって、友情 (Friendship) と「感謝」 (Gratitude) の念を中核とする「人間力」を醸成していることを明らかにする。
実践者名	第一著者, 第二著者
対象者	「信大 YOU 遊未来」茂菅, 青木, 麻績, 大岡, 湯谷, 須坂, 喬木の活動に参加した地域社会の子どもたち約 300 名
実践期間	2010 年 1 月～2012 年 3 月
実践研究の方法と経過	大学 3 年生 (2010) の冬, 長野市大岡での「YOU 遊」の活動において, 学びへの強い意欲に満ちた 80 代の高齢者に出会い感動した。このことがきっかけとなり第 18 期「信大 YOU 遊世間」の運営委員長を立候補し, 「YOU 遊」体験が教員養成に及ぼす影響を明らかにすること研究課題とした。「YOU 遊」体験をした卒業生 206 名に省察文の執筆を依頼し, 124 名から回答を得た。また, 在学学生 97 名にも省察文の執筆を依頼し, 64 名から回答を得た。この 188 名のデータをもとに分析し考察した。
実践から得られた知見・提言	教師の実践的指導力の基底として考えられる「人間力」の中核をなす資質は, 学生同士が地域貢献活動において苦楽を共にすることによって結ばれた深い「友情」 (Friendship) と地域社会の人々や子どもたち, そして学生仲間に対する心からの「感謝」 (Gratitude) の念であることを明らかにした。「友情」と「感謝」は一生ものの宝であると言えよう。

1. 本稿の目的

平成 24 年 (2012) 6 月 30 日に、信州大学教育学部において開催された中部教育学会第 61 回大会において、次の 2 つの研究発表を行った。

- ①服部直幸・土井進：「信大生が修得した実践的指導力の特質「仲間 (Friendship)」と「感謝 (Gratitude)」－「信大 YOU 遊サタデー・広場・世間」18 年、188 名の省察文の分析－」②土井進：「教員養成フレンドシップ事業「信大 YOU 遊未来 (CHANCE)」の精神と「信州教育」の精髓」

本稿は、これらの研究発表をもとに 20 年間継続されている「信大 YOU 遊未来」によって醸成されている学生の「人間力」の中核は、深い「友情」(Friendship) と「感謝」(Gratitude) の念であることを究明することにある。筆者(服部)は、「信大 YOU 遊世間」(当時、以下「YOU 遊」と略す)の活動に 4 年間取り組んできた。特に大学 3 年生(2010)の冬、長野市大岡での活動を通して、学びへの強い意欲に満ちた 80 代の高齢者に出会い感動した。このことがきっかけとなり理科教育分野から総合生活科教育分野に転分野するとともに、第 18 期「信大 YOU 遊世間」の運営委員長として「YOU 遊」体験が教員養成にどのような影響を及ぼしているかを究明することを研究課題とした。

2. 「信大 YOU 遊未来 (CHANCE)」20 (2013) の経過と臨床経験科目の体系化

「信大 YOU 遊サタデー」は平成 6 年 (1994) 6 月 6 日に発足した。教職に就きたいと念願する学生たち 40 余名が、既存の教員養成カリキュラムに憤りを感じ、子どもたちとのふれあいを目的に授業外活動として実践したのが始まりであった。その後、「信大 YOU 遊広場 (PLAZA)」(平成 13 年度)、「信大 YOU 遊世間 (WORLD)」(平成 15 年度)、そして「信大 YOU 遊未来 (CHANCE)」(平成 24 年度)へと改称して今日に至っている。

学生主体の教員養成を実践するには、内外の様々な困難に立ち向かわなければならなかった。時代のニーズに対応できる学生組織へと思い切った改革を繰り返しながら、組織の実態に即した名称に更新してきた。このような変化の中でも「やりたい人が、やりたいことを、やりたいようにやる」、という主体的・自発的な「YOU 遊」精神だけは不動であった。学生たちの主体的・自発的な地域貢献活動の底流に流れる不屈の教育者魂は、「信州教育」の精髓と通底するものである。三重大学名誉教授・齋藤昭(教育哲学・マルチンブーバー研究)は、「YOU 遊」の事業は「信州教育の宝であると同時に、それを越えた普遍的・国民教育として真に有効な教育の方法である」(1)と高く評価している。「YOU 遊」の地域貢献活動が 20 年にわたって授業外活動として実践されている理由は、高久清吉(1990)が「実践的指導力の向上は、「実地指導」や「実務に従事、参加」させることによってだけ期待されるのではなく、同時に、いやそれ以上に、実践者自身の主体的、自主的な理解や判断や決定を助長する働きかけや方向づけによって期待される」(2)と述べていることに尽くされている。

信州大学の教員養成カリキュラムは、「教育実習」などの子どもに直接かかわる教職科目

を1年次～4年次まで体系的に配置し、これらを臨床経験科目(3)と称している。臨床経験科目を体系化する端緒を開き、教員養成カリキュラム改革の全国的展開の起爆剤となったのが「信大 YOU 遊サタデー」(4)であった。平成8年度(1996)、松本キャンパスで学んでいる1年次生のために、隣接地にある附属幼稚園・附属松本小学校・附属松本中学校の教育活動に学生が参画する「教育参加」(教職科目第2欄)が開設された。従来の教員養成の発想ではどうも考えられない1年生が附属学校園の幼児・児童・生徒に関わるというカリキュラムを可能にしてくれたのが「信大 YOU 遊サタデー」の学生パワーであった。(5)

平成9年度(1997)から文部省による教員養成大学・学部フレンドシップ事業が始まると、「教育参加」の内容に長野県教育委員会との連携事業を取り入れ、信州大学教育学部はこの授業科目をフレンドシップ科目とした。フレンドシップ事業は「信大 YOU 遊サタデー」を一つのモデルにしたといわれている。しかし、我々は「YOU 遊」の学生実行委員会の強い要望であった、「私たちは単位が欲しくてこの活動をしているのではありません」に基づき、毅然として授業科目化する道を選ばなかった。「YOU 遊」はあくまでも授業外活動として、学生の主体的意志に基づいて実践する道を選んだが、目指すところは学生時代に実践的指導力の基礎を育成するところにあつたので、信州大学教育学部においては「信大 YOU 遊サタデー」と「教育参加」を合わせてフレンドシップ事業として申請してきた。

平成16年度(2004)から国立大学が国立大学法人として独法化されたことに伴い、フレンドシップ事業は7年間で終わりを告げた。しかしこの間に、平成11年11月と平成12年12月に信州大学教育学部において、フレンドシップ事業全国学生シンポジウムが開催されたことが機縁となって、平成13年3月に鳴門教育大学をホスト校として第1回「全国フレンドシップ活動」が発足した。以後毎年全フレが継続され、平成25年3月には上越教育大学がホスト校となって、第13回「全国フレンドシップ活動 in 上越」が開催され、11大学が参加した。

3. 「YOU 遊」体験の省察文の収集と「実践的指導力」の構造化

3.1 卒業生への省察文の依頼

「YOU 遊」体験をした卒業生で、連絡先が分かった206名に次のような依頼状を平成23年6月に郵送し、8月31日締め切りで124名から回答を得た。

「私の教育実践と YOU 遊サタデー・広場・世間の経験」について、400字程度の省察文執筆のお願い。新緑と清流に囲まれた「信大茂菅ふるさと農場」では、過日、学生と子どもたちによって12回目の田植えが行われました。皆様にはお変わりありませんか。

さて、皆様の情熱と先輩から後輩への熱い絆によって、「信大 YOU サタデー・広場・世間」は去る6月6日に18年目を迎えました。また、松本キャンパスで学んでいる1年生が3年生になる平成25年度に20周年を迎えます。今年度の学長裁量経費のプロジェクトに「社会力を育む第18期「信大 YOU 遊世間」の実践」が採択されました。この経費をも

とにして『フレンドシップ事業「信大 YOU 遊サタデー・広場・世間」18年の教師教育学研究』をまとめたいと思います。

つきましては、「正副実行委員長，運営委員長」，「正副キャプテン」，「正副プラザ長」，そして「正副講座長」を務めた500余名の皆様には，表記のテーマで省察文をご執筆いただきたくお願い申し上げます。」

3.2 在学生への省察文の依頼

「YOU 遊」体験のある1～4年次生97名に次の依頼状を手渡した。平成23年11月4日の締め切りまでに64名から回答があった。「臨床経験科目と「信大 YOU 遊世間」から学んだこと」という題で400字程度の省察文をお願いします。」

収集された188名の省察文は，土井進編著（2012）『教員養成フレンドシップ事業「信大 YOU 遊」18年の教師教育学研究』に集録されている。

3.3 教師教育と「実践的指導力」

教師の資質能力を示す「実践的指導力」という用語は，教育職員養成審議会答申（1987年12月）「教員の資質能力の向上方策について」において，初めて公的に提言された。そこにおいてこの用語が含意する概念として，①教育者としての使命感，②人間の成長・発達についての深い理解，③幼児・児童・生徒に対する教育的愛情，④教科等に関する専門的知識，⑤広く豊かな教養の5つが提示された。平成24年8月の中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」においては，「実践的指導力」が16回も繰り返し用いられ強調されている。

3.4 9適性から成る「実践的指導力」の構造化

「実践的指導力」が含意する上記の5つの概念を，授業を構成する「子ども」「教材」「教師」の3要素に大別し，さらに「YOU 遊」の実態に即してそれぞれの要素に3つずつの適性を設定して，実践的指導力を次の9適性として構造化した。

I. 子ども（幼児・児童・生徒への共感的理解，人間力，Friendship）

適性1. 子どもに教育的愛情を捧げること。友への感謝の念と友情を体験すること

適性2. 幼児・児童・生徒の成長・発達を信じて待つこと

適性3. 他者のありのままを受け入れ，心をつなぐこと

II. 教材（各教科等の教材研究，学問力，Scholarship）

適性4. 各教科等の専門の学問を研究すること

適性5. 地域の人々がどういうことを求めているかを捉えて教材を開発すること

適性6. 子どもがどういうことを楽しいと思っているかを傾聴し，活動を企画・実践すること

III. 教師（教職への深い使命感と強い志，教師力，Educatorsip）

適性7. 他者に尽くすことを我が喜びとすること。他者への尊敬・畏敬の念をもつこと

適性8. 内発的な意思と判断に基づいて，主体的に実践すること

適性9. 教育者としての使命感に燃えること。教職への志を立てること

この9適性が187名（1名は不備により削除）一人ひとりの省察文にどの程度含まれているかを明らかにするために、

5. 大いに含まれている 4. ある程度含まれている 3. どちらともいえない
2. あまり含まれていない 1. ほとんど含まれていない

の5段階による「実践的指導力」評定シートを作成し、評定者を3名選んで実施した。この数値をもとに9適性の含有評定とクラスタ分析を行った。

4. 実証的分析の結果と考察

4.1 「実践的指導力」の9適性の含有度とその考察

表1. に示したように、適性1、適性3、適性9が他の適性に比べて相対的に含有度が大きい傾向が見られた。これは適性1においては、「YOU遊」を経験した卒業生・在学生在が、この活動を通して子どものために共に力を尽くすことによって、友への「感謝」の念と「友情」を深く心に刻んだことによると考えられる。また、適性3においては、初対面の子どもたちと活動を作り上げていく過程において、卒業生・在学生在が子どもたちとの関わりを大切にし、ありのままを受け入れて、人間関係づくりに努めたことによると考えられる。そして、適性9においては、「YOU遊」の活動に参加した卒業生・在学生在は、もともと教職への高い関心を抱いており、子どものために全力で準備して取り組んだ活動によって、子どもたちの輝く笑顔に出会い、教職への志を更に一層強めたことによると考えられる。卒業生は学生時代にひたすら子どもたちのために情熱を傾けたことを振り返り、教師としての原点になったと省察している。

表1. 省察文 (N=187) における9つの適性の含有評定

	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
適性1	33▼	6	5	11	132
適性2	117△	6	10	19	35
適性3	52▼	2	0	10	123
適性4	137△	7	7	13	23
適性5	115△	2	1	5	64
適性6	105△	4	3	9	66
適性7	128△	2	3	7	47
適性8	77 ns	3	4	19	84
適性9	25▼	5	2	11	144

注1. 含有段階の定義は次のとおり。

段階5：大いに含まれている 段階4：ある程度含まれている

段階3：どちらともいえない 段階2：あまり含まれていない
 段階1：ほとんど含まれていない

注2. 段階1のみ残差分析の結果を示す ($p=0.05$, 両側).

△：有意に多い ▼：有意に少ない ns：有意でない

反対に、含有度の大きさを調べるため、段階5・4を併合し、かつ残り3段階を併合してカイ二乗検定により全9適性を多重比較した(下の図1. 参照).

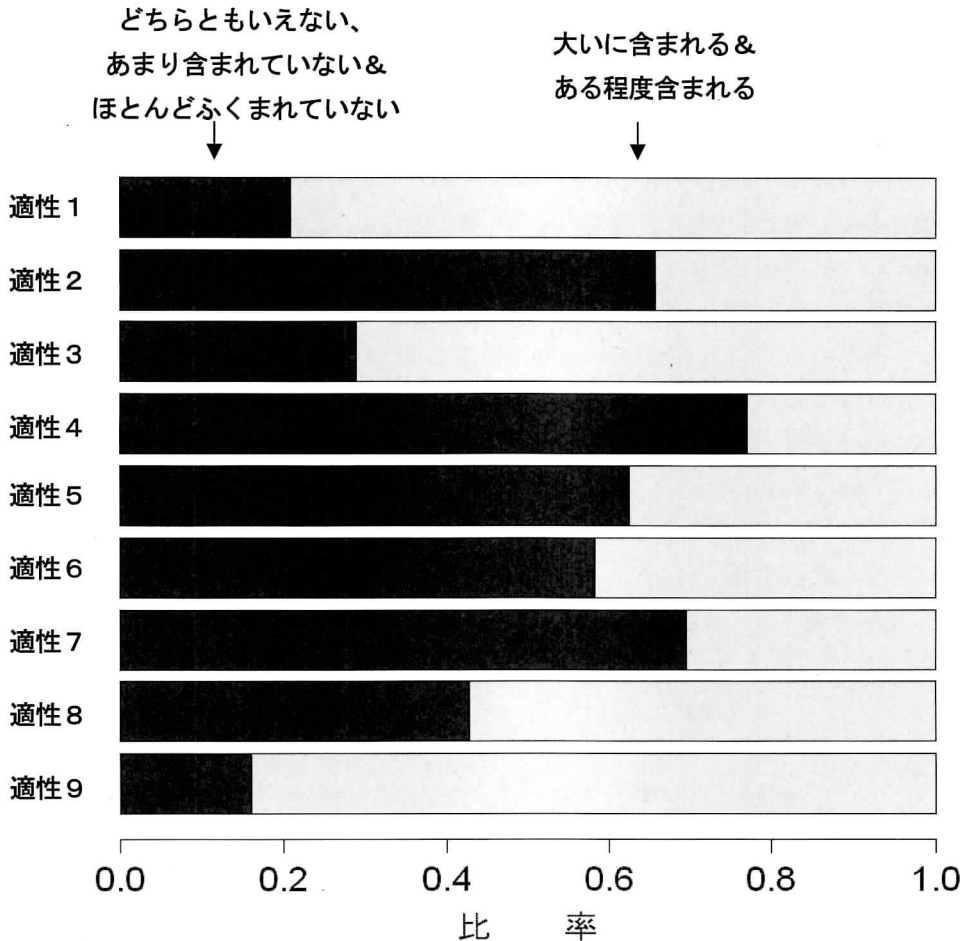


図1. 「実践的指導力」の9適性の含有度

その結果、含有度の大きい順として、適性9>適性1>適性3>適性8> 適性6>適性5 >適性2>適性7> 適性4, という有意な大小関係が見られた ($p=0.05$, p 値の調整は Benjamini & Hochberg 法による).

この結果から、適性4の含有度が最も少なかったことが分かる。これは、学生が「YOU 遊」体験において出会う子どもたちは、教育実習における「教師」と「児童」という関係で

はなく、あくまでも大学のお兄さん、お姉さんと子どもたちという関係の上に成り立っているところに由来する。学生は子どもたちに知識・理解を系統的に教えていかなければならないという責任を担っているわけではない。あえて教科学習に取り組まないのは、学習塾のような役割になることを避けているからである。学生にとっての主眼は、教科等の知識を与えることではなく、子どもたちとの出会いの場における人間関係作りがもっばらの関心事となっていることによるものと考えられる。

また、適性 9. の含有度が最も高かったのであるが、これは学生が主体的に地域貢献活動に汗を流すことによって、教職への確かな手ごたえを感じ取り、教育者としての道を歩む使命感を抱くに至っているからであると考えられる。学生は子どもたちや地域の人々に出会うことを楽しみにして地域社会に出ていく。そこにはお兄さん、お姉さんとの再会を待ち焦がれてやってくる子どもたちがいる。この両者の出会い、ふれあいに喜びと感動が生まれる。

4.2 省察文のクラスタ分析の結果とその考察

含有度評定値による省察文 (N=187) のクラスタ分析 (ユークリッド距離二乗を用いたウォード法) をおこなった結果は、図 2. のように 4 クラスタが適当と考えられた。

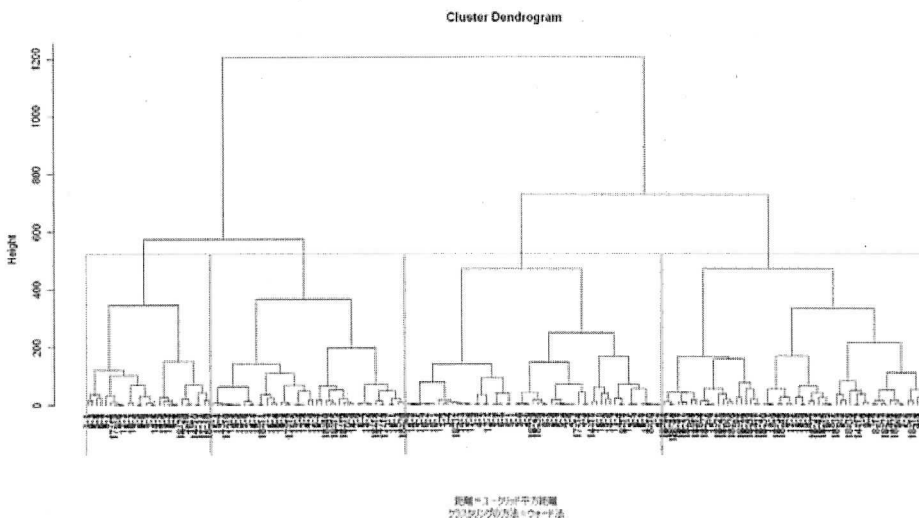


図 2. クラスタ分析結果

各クラスタの要素別の含有度を調べるため、要素ごとに、4 クラスタ×2 含有段階 (併合された) のカイ二乗検定をおこない残差分析の結果を表 2. にまとめた。

クラスタ	CL 1	CL 2	CL 3	CL 4
適性 1	△	▼	-	-
適性 2	△	△	▼	-

適性 3	△	△	▼	▼
適性 4	▼	-	-	-
適性 5	▼	△	△	▼
適性 6	△	▼	-	△
適性 7	-	△	▼	-
適性 8	-	-	-	-
適性 9	▼	▼	△	-

注. 残差分析の結果を示す (p=0.05, 両側).

△ : 他のクラスタより有意に多い ▼ : 他のクラスタより有意に少ない

- : 有意でない

表 2. 各クラスタにおける要素の含有パターン

表 2. を見ると、クラスタ 1 (CL1) の成員数は 28 人で、適性 1・2・3・6 の内容が他のクラスタより有意に多いことが特徴である。これは、子どもとの関わりを強く求めていることの表れと考えられる。次にクラスタ 1 に属する事例を掲げる。

(1) 信州の根っこを創る夢実現活動を未来へ (長野県・中学校教員, 第 6 期)

「YOU 遊の活動は、「素敵な先生を育てるため」はもちろんのこと、それ以上に「素敵な大学生を育てるため」の活動であり、大学生の社会貢献の場である。子どもたち、地域、家庭、学校をつなげることができる人材が集まる場所、それは大学ではないだろうか。時間、やる気、柔軟な発想力、そして何より夢を持っている学生が、これらを結び付けられる唯一の存在だと考える。失敗を恐れず泥にまみれて活動できる素晴らしさがそこにある。YOU 遊 OB が中堅教員となってきた今、OB と現役生がつながり、お互いに刺激を受けながら活動を展開するチャンスがこれからやってくる。YOU 遊は信州の宝であり、根っこの部分を育てる活動だ。この活動を未来へつなげ、信州中、日本中の子どもたちを元気にする、素晴らしい活動としていって欲しいと願う。大きな夢を持った大学生と共に、志を同じくする仲間として、最大限の協力をしたい。」

また、クラスタ 2 (CL2) の成員数は 57 名で、適性 2・3・5・7 の内容が他のクラスタより有意に多いことが特徴である。この特徴からは、児童・生徒が秘めている成長・発達への可能性に強い信頼感をもち、子どもってすごいという畏敬の念すら覚えていることが伺われる。さらに子どもの成長に欠かすことのできない保護者や地域の人々への尊敬の念も表れている。次にクラスタ 2 に属する事例を掲げる。

(2) YOU 遊サタデーの思い出と教育現場 (長野県・小学校教員, 第 2 期)

「スライムを作っている時の子どもたちの目の輝きは、貴重な宝物です。あの当時、子どもと関わる機会は教育実習しかありませんでした。子どもと関わる機会を持ちたいと参加した YOU 遊サタデー。実際に子どもと関わってスライム作りをしてみると、子どもた

ちの年齢差や個人差があつて、満足してもらうには工夫が必要なことがわかりました。スライムの作り方を簡単にするにはどんな道具を作ったらよいかを考えて教材研究したり、時間配分など講座運営の仕方を考えたりしました。私が試行錯誤を繰り返した企画を、子どもたちがとても楽しそうに目を輝かせてくれた時の充実感は今でも忘れられません。YOU 遊サタデーと教育現場を重ね合わせてみると、私は今でも同じことを追求しているのだと思います。」

クラスタ 3 (CL3) の成員数は 59 名と最も多く、適性 5・9 の内容が他のクラスタより有意に多いことが特徴である。これは、「YOU 遊」の活動は村や農家の人々との連携によって継続されていること。地域の大人の中には本気になって子どもの事を考えている人がいることに学生は目を見張り、教職に就いてからも地域社会の人々と連携し、地域教育力を活かした授業づくりに取り組んでいることを物語っている。次に事例を掲げる。

(3) YOU 遊サタデーで得たものは「人間力」(長野県・小学校教員、第 5 期)

「YOU 遊サタデーを振り返ってみると、子どもとふれあう機会を得たこと、そして、シンポジウムを実施するために様々な準備をする経験ができたこと。この 2 点が大きかったと感じている。教育実習はあるものの、大学では子どもとふれあう機会が少なく、4 月から教職について子どもと向き合えるのか。そんな不安を抱えていた。しかし、年数回とはいえ、YOU 遊サタデーは子どもとふれあい、そんな不安を払拭することができた。また、シンポジウムを開催するため仲間と協力し準備することで、企画立案の楽しさや大変さ、ノウハウを身に付けることができた。また、全国の同じような活動をしている仲間と交流できたことも、自分の人生において大きな経験であった。

このシンポジウムの準備中、仲間と話し合う中でこんな話があった。「教師としての力や技術は、現場に出てからいくらでもつけることができるが、この活動をするには、そういう力とは別の、自分の器を大きくするようなもので、ここで、その器を大きくしておかないと、現場に出て力をつけようとしても、コップから水が漏れるように、教師の力がつかないんじゃないか」今、教職に就く中で、この話を振り返ってみると、「人間力」という言葉につながると思う。人間として大きな成長をした場であったように思える。」

クラスタ 4 (CL4) の成員数は 43 名で、適性 6 だけが他のクラスタよりも有意に多くなっている。これは「YOU 遊」の活動を企画・実践するとき、学生が最も強く意識することは、子どもの笑顔を見たいという切実な願いであることの表れと言えよう。ただ一つ、適性 6 だけが他の適性に比べて有意に多いということは、子どもの笑顔を念頭において活動を企画・実践している学生がいかに多いかを示すものといえよう。次に事例を掲げる。

(4) 子どもたちの「笑顔」に囲まれた教員になるために(愛知県・小学校教員、第 10 期)

「私は今、愛知県の小学校で教員になって 5 年目になる。教員という仕事に生きがいと楽しさを感じながら仕事に励んでいる。そんな私が本気で教員を目指し始めたのは、YOU 遊世間を通して多くの子どもと出会い、多くの笑顔に触れ、多くの喜びを得られたからである。今でも学生時代に感じた子どもたちの輝いた笑顔の持つ力を追い求めて、いかにし

て笑顔の花をたくさん咲かせていくかが、私の学級経営や授業内容を考える基盤になっている。YOU 遊世間がどれほど偉大な活動であるかは正直想像がつかないが、YOU 遊世間での経験が今の私の基になっていることは間違いない。実際の学校現場で働いてみて、机上の勉強も大切だが、多くの子どもや大人とかかわる中で大切なことを学んでいけるYOU 遊世間のような「体験型の学び」はもっと大切であると感じている。」

5. まとめ

「YOU 遊」体験をした卒業生 124 名、在學生 63 名、合計 187 名の省察文に含まれている実践的指導力の 9 適性の含有度を 3 人に依頼して 5 段階で評定した。そこから得られた含有度評定値による省察文のクラスタ分析を行った結果、4 クラスタが適切と考えられた。第 1 クラスタの特色は子どもとの関わりを強く求めていること、第 2 クラスタは子どもってすごいという畏敬の念を覚えていること、第 3 クラスタは村や農家の人々との連携への感謝の念が強いこと、第 4 クラスタは子どもの笑顔に会いたいという強い願いを持っていることが特色として考えられた。これら 4 つのクラスタをまとめて言えることは、学生は「YOU 遊」体験を教育者としての使命感を自覚し、教職への志を立てる場として生かしていること、「YOU 遊」体験は友や地域社会の人々への友情と感謝の念を深める場となっていることが明らかになった。深い「友情」と「感謝」の念こそは、一生ものの宝であり、教師に求められる実践的指導力の根幹となる人間力にほかならないと考える。

謝辞

本研究の実証的分析の労作業をお引き受け下さった本学部の田中敏教授（教育心理学）に深く感謝申し上げます。

文献

- (1)土井進編(2012)『教員養成フレンドシップ事業「信大 YOU 遊」18 年の教師教育学研究』全 176 頁, p.6, 信州大学教育学部
- (2) 高久清吉(1990)『教育実践学—教師の力量形成の道—』p.8, 教育出版
- (3)臨床教育推進室編(2006)『臨床経験ハンドブック いま ここから』全 50 頁, p.1, 信州大学教育学部
- (4)高倉翔(2012)「実践的指導力育成と「教職科目」改革の先駆的实践」, 上掲書(1), p.9
- (5)土井進(1997)『平成 8 年度 臨床経験の授業科目「教育参加」の開設と学生の反応』全 72 頁, 信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター

(2013 年 6 月 28 日 受付)